活用型情報モラル教材

GIGA ワークブック とちぎ

アドバンスド

2024

活用の手引

本書の使い方

3つのポイント

① 情報活用と情報モラルをセットで学ぶ

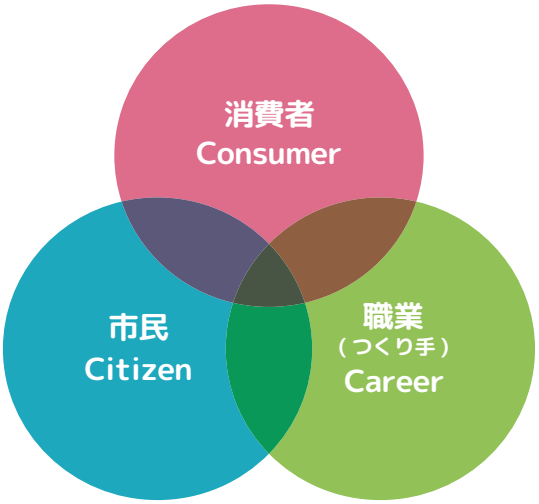
これまでの情報モラル教育は、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけでなく、上手な情報活用の方法をセットにして学ぶことができます。例えば、端末を使って写真を撮る場合には、写真を撮るときの上手な撮り方と、写真を撮るときのマナー、さらにはトラブルを防ぐための方法やトラブルがあった場合の対応なども学ぶことができます。

② ５０分でも１５分でも実施できる

これまでの情報モラル教育は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などを使い、50分で実施するケースが多くありました。もちろん、50分でじっくりと考えることも重要ですが、本教材はそれに加えて、ICTの活用場面（写真を撮る、調べる、共有する…）において、モジュール（１５分）を利用して、短く情報モラル等を学べる教材となっております。ぜひ、ICT活用の前後でご活用ください。

③ 3C（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点で考える

これまでの情報モラル教育は、個人がどのようなモラルを身に付けるか、個人がどのようにリスクを回避するかという視点でつくられていました。本教材では、この視点を拡張し、３C（消費者：Consumer、市民：Citizen、職業人・つくり手：Career）の視点で作成しています。よき消費者として、リスクを回避し上手に使うことはもちろん、よき市民として、情報社会に参画し、社会に働きかける、よき職業人・つくり手として、新しい情報社会をつくっていくことを目指しています。



内容一覧

本編ページ	内容		
1	情報モラルを学ぼう(50分授業)		
2	社会の変化と情報モラル		
6	自分と相手との違い		
9	こんなつもりじゃなかったのに		
12	生活を見直そう		
15	災害時のSNSの使い方①		
18	災害時のSNSの使い方②		
21	災害時のSNSの使い方③		
24	「信頼」と「信用」		
27	「見えないお金」と上手につきあおう		
30	複利的思考を身につけよう		
34	SNSによる情報発信のリスク		
38	新しい情報技術とのつきあい方を考えよう		
42	情報活用能力を身に付けよう(15 分 授業)		
44	使う前に	WEBアプリやクラウドを活用しよう	活用スキル
46		AIと探究的な学び	活用スキル
48		リスクマネジメントを身に付けよう	情報モラル
50		クライシスマネジメントを身に付けよう	安全・トラブル対応
55	写真を撮る	目的に合わせて上手に写真を撮ろう	活用スキル
57		ショート動画の絵コンテをつくってみよう	活用スキル
59		どこまで写真を公開してもよいのかな	情報モラル
61		リスクの低いプロフィールをつくろう	安全・トラブル対応
66	調べる	先行事例や先行研究を調べよう	活用スキル
68		調べるべき「よい問い」を考えよう	活用スキル
70		情報の信頼性の確かめ方	情報モラル
72		どこまでが広告なのかな?	安全・トラブル対応
77	考える	アンケートの質問項目をつくろう	活用スキル
79		問題を深く分析してみよう	活用スキル
81		ルールの「ズレ」を考えよう	情報モラル
83		盗用を防ぐには	安全・トラブル対応
88	共有する	情報を上手に共有するには	活用スキル
90		発表を客観的に評価してみよう	活用スキル
92		批判と非難はどう違う?	情報モラル
94		チャットの悪口、どう止める?	安全・トラブル対応
99	つくる	見やすいデザインを考えよう	活用スキル
101		タイトルを考えよう	活用スキル
103		著作権はなんのため?	情報モラル
105		知的財産をどう守る?	安全・トラブル対応
110	交流する	多様な人たちと交流しよう	活用スキル
112		新しいアイデアを生み出す交流のまとめ方	活用スキル
114		どこまで伝えてよいのかな?	情報モラル
116		セキュリティを見直そう	安全・トラブル対応
121	家で使う	学習で上手に活用しよう	活用スキル
123		生成AIを保護者と一緒に体験してみよう	活用スキル
125		タイムマネジメントを身に付けよう	情報モラル
127		使いすぎてしまう時は	安全・トラブル対応
131	保護者の方へ		
132	ケータイ・スマホトラブル分類表		
133	家庭のルールを考えよう		
136	フィルタリングとアプリの設定		
138	インターネットにおけるコミュニケーションの特性		

よくある質問

Q. 50分の教材と15分の教材の違いはなんですか？

本教材には、50分で情報モラルを学ぶ教材と15分で活用スキル、情報モラル、情報セキュリティ・トラブル対応を学ぶ教材があります。50分で学ぶ教材は、HRや総合的な探究の時間などの時間を使ってじっくりと情報モラルについて考えることができます。15分で学ぶ教材は、各教科等で端末を使う場面で必要なものをサッと学ぶことができます。情報モラルだけでなく、上手に活用する方法やトラブルにあってしまった時のことも学べますので、必要に応じてご活用ください。

Q. どのような順番で進めればよいですか？

本教材は、最初から順番に進める必要はありません。例えば、活用場面で選んでいただき、写真を撮ったり、共有したりする場面でご活用いただいたり、トラブルで選んでいただき、トラブルを防ぎたい時にご活用いただいたりすることも可能です。15分・50分と区切りがあるので、学校の年間カリキュラムに差し込むこともできます。

Q. 自主学習でも利用できますか？

本教材は、自主学習でもご活用いただけますが、ドリル学習のように一問一答形式ではありませんので、おすすめは、授業の中で、個人で考えてからグループで共有する方法です。正解を学ぶのではなく、どのようにすれば上手に使えるのか、何がリスクなのかについて生徒達が話し合っていくことで、多様な考えに触れることを目的としています。

Q. 学校でのトラブルに対応していますか？

対応しています。活用の手引には、＃端末の破損、＃勝手に写真を撮る、などのように様々なトラブルのタグがありますので、そちらを参考にしていただき、授業内容をご検討ください。

Q. デジタル・シティズンシップ教育に対応していますか？

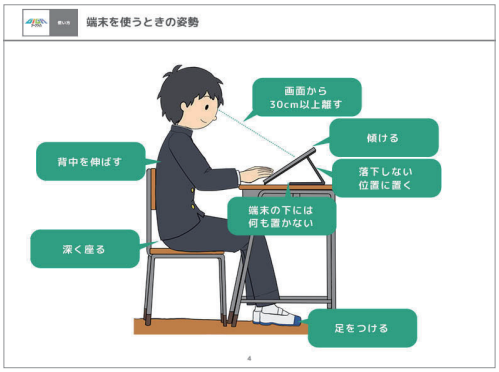
対応しています。本教材では、３Ｃ（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点から教材を構成しています。「消費者」としてモラルを身に付け、リスクから身を守ることはもちろんのこと、「市民」として情報社会に参画し、社会に働きかけること、さらには、「職業人・つくり手」として、新しい情報社会をつくっていくという内容が入っております。これらは、発達段階によって内容の比率が変わっており、小学校は消費者の内容、中学校では市民の内容、高校では職業人・つくり手の内容が多く含まれています。

はじめに

端末の基本的な操作方法や家庭及び学校で使用する際のルールについて、説明しています。
これから扱う膨大な情報量を収集・発信できる端末について、①生徒達が情報モラルを考えていけるよう、②長時間使用による視力の低下等、健康上の観点からも、まずは使用する前にルールを定めましょう。

端末を使うときの姿勢

・授業中の読み書きと同じように、端末を使うときの姿勢は大切です。視力低下や姿勢が崩れないためにも、正しい姿勢で扱えるようにしましょう。



健康チェック表

・端末を長時間利用することでの健康被害も心配されています。特に、目の状態、筋肉や関節の状態、ストレスの状態を定期的にチェックするようにしましょう。また、保健室の先生や保護者の方とも連携しながら指導にあたるようにしましょう。

モデル指導案：自分と相手との違い

学活　総合　道徳　国語

授業のねらい

・同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
・文字だけで伝えると、感情が伝わらないので、誤解されやすいことに気付く。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
25分	**1．カードで学ぼう①** ・3～5名のグループとなり、カード教材を準備する。 **あなたが、クラスの友達から言われて「嫌だ」と感じる言葉を一つ選んでみましょう。** ・カードの中から1枚を選ばせ、グループの全員が見えるように提示させる。 **嫌だと感じた理由を書きましょう。** ・グループで理由を説明し合わせる。 **他の人に意見を聞いて、どんなことに気が付きましたか。** ・クラスで共有させ、気が付いたことを発表させる。 ・ネットの特性を読み上げ、「真面目だね」の文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の伝わり方の違いについて書いた考えを説明させる。	○カード教材
20分	**2．カードで学ぼう②** ・カードを裏返すように指示する。 **あなたが、SNSでクラスの友達からされて「嫌だ」と感じる順に並べてみましょう。** ・5枚のカードを、「嫌だ」と感じる順に並べさせ、グループの全員が見えるように提示させる。 **一番嫌だと感じるカードを選んだ理由、一番嫌ではないと感じるカードを選んだ理由を書きましょう。** ・グループで理由を説明し合わせる。 ・クラスで共有させ、理由を発表させる。 **たかしさんと花子さんに、どんなトラブルが起きる可能性があるか、考えてみましょう。**	○カード教材
5分	**3．まとめ** ・家庭でカード教材を一緒に体験してみるように伝える。	

モデル指導案：こんなつもりじゃなかったのに　学活　総合　道徳

授業のねらい

・コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気付き、自分と他者との危険（リスク）の予想の「違い」に気付く。
・ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法について考える。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
5分	**1．導入** ・トーク内容を読み上げながら、状況について確認する。 どちらがトラブルになるリスクが高いでしょうか。 ・グループで発表し、クラスで共有する。 ・今日の授業では、「『こんなつもりじゃなかったのに』とならないために『リスクを見積る力』を身に付けること」を伝える。	
20分	**2．カードで学ぼう** ・3～5名のグループとなり、カード教材を準備する。 このあと、どうなるでしょうか。 ・それぞれのトークを15秒で「この先、グループの会話がどうなるか」を予想して、分類する。 ・その際、自分だけではなく、グループ内の他者がどのように感じるかも考える。	○カード教材
20分	**3．判断の根拠を共有しよう** ・判断の根拠になった部分を赤で囲む。 ・グループで判断した理由を発表し、気付いたことを記入する。 「こんなつもりじゃなかったのに」とならないためには、どうすればよいでしょうか。 ・ メッセージを送る時、見る時、どんなことに気を付けたらよいかを考える。	○カード教材
5分	**4．まとめ** ・家庭でカード教材を一緒に体験してみるように伝える。	

モデル指導案：災害時のSNSの使い方①

道徳　社会　総合　学活

授業のねらい

・災害時の情報の見極め方を考える。
・SNSを通じて防災に貢献できることに気付き、防災への意識を高める。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
15分	**1．情報防災訓練をやってみよう** あなたの住む街（田山市）に大型の台風が近づいてきています。あなたは家族と一緒に自宅の2階にいて、スマホで様々な情報を集めています。下の4枚のカードの情報について、信頼性が高いかどうかを分類してください。 ・11:50の情報として①～④のそれぞれのトークに書かれた情報を読み、信頼性が高いかどうかを分類させる。 ・グループ、クラスで共有させる。	○カード教材
15分	**2．情報防災訓練をやってみよう** 時間が経ち、台風が通過したようです。 下の4枚のカードの情報について、信頼性が高いかどうかを分類してください。 ・19:10の情報として⑤～⑧のそれぞれのトークに書かれた情報を読み、信頼性が高いかどうかを分類させる。 ・グループ、クラスで共有させる。	○カード教材
15分	**3．情報をどう見極めるか** ・どこに注目して情報を見極めればよいかを考えさせる。 情報は、「だいふく」で見極めよう だ…誰が言ったのか い…いついったのか ふく…複数の情報を確かめたのか ・①～⑧のトークの情報を「だいふく」で考えさせる。	
5分	**4．まとめ** ・家庭でカード教材を一緒に体験してみるように伝える。	

モデル指導案：SNSによる情報発信のリスク

道徳　総合　学活　技術・家庭　情報

授業のねらい

・「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクに気付く。
・自分が被害者や加害者になることを予防するために、自撮り写真に関する「法的知識」を学ぶ。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
10分	**1．考えてみよう①　発信する際のリスク** ・３～５名のグループとなる。 「カフェに行ったこと」を投稿したいと考えている場合、どんな写真を発信するとリスクがあるか考えてみましょう。 ・個人で考えさせた後、グループで理由を説明させる。	○カード教材
20分	**2．考えてみよう②　どのように対応する？** ・カフェに行った写真をSNSに投稿したところ、メッセージが送られてきた場合の対応方法を考えさせる。 もし、写真を要求されたら、どのように断るかを考えてみましょう。 ・個人で対応方法を考えた後、グループで対応方法を説明させる。 もし、この後、トラブルに巻き込まれそうになったら、どのタイミングで誰に相談するかな？ ・個人でどのようなトラブルに合う可能性があるかを考え、相談相手や相談するタイミングをグループで共有させる。	
15分	**3．考えてみよう③　犯罪のリスクの判断** ・SNSに関する法律について考えさせる。 罪に問われることか、問われないことか考えてみましょう。また、罪に問われる場合はその罰則も考えてみましょう。 ・個人で考えさせた後、グループで考えを共有させる。	○カード教材
5分	**4．まとめ** ・3つのワークから学んだ「SNSによる社会への発信」のリスクとポイントを伝える。	

社会の変化と情報モラル

社会　家庭科　総合　体育(保健)　道徳　学活

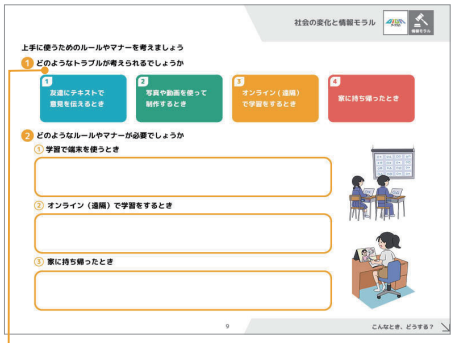
ねらい

・AIやIoT、ロボットなどの発達で自分たちの暮らしがどのように変化するかについて考える。
・端末を使用した学びのイメージを膨らませ、そこで大切にすべきことを考える。
・端末を活用する際に想定される様々なトラブルについて考える。
・端末を上手に活用するためのルールを考え、それらを守ろうとする。

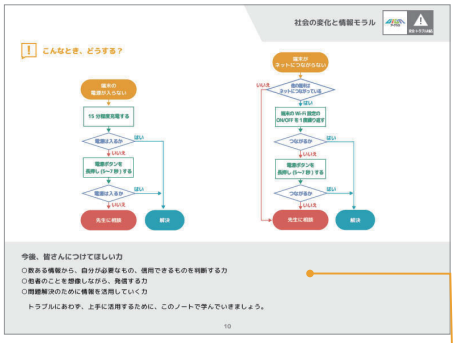
・便利になっていればよいことについて、家や学校といった場所の視点、スポーツ・勉強・遊びといった活用の視点、お年寄りや子どもといった人の視点など様々な視点から考えさせる。

・家庭での学びについては、端末を持ち帰ることができかどうかなど、各学校の実態に応じて内容を説明する。

・中学校では端末は学校から貸与されたもの、高校では家庭で購入したものであることを確認し、学びのために使うこと、そして大切に使うことの重要性を伝える。



次のようなことに気を付けさせる。
・テキストメッセージで悪口を書く
・勝手に人の写真を撮る
・著作権を侵害するような写真や動画を使う
・オンライン学習中に勝手に友達の写真を保存する
・オンライン学習中に指示と違うことを行っている
・目を近づけて、長時間使用する
・遅い時間まで使用する



・パスワードの管理は今後も必要になってくることであり、できるだけ推測されにくいものをつくり、他人に伝えないようにすることの重要性を伝える。また、端末を使用する姿勢や長時間使用による眼精疲労に注意させる。

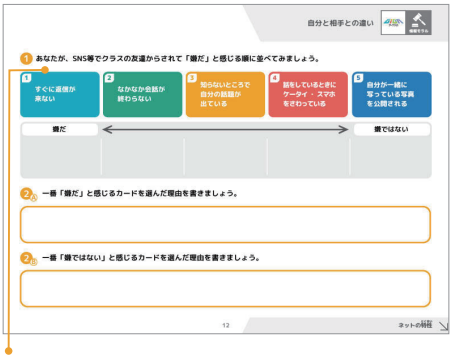
自分と相手との違い

学活　総合　道徳　国語

P6のモデル指導案を参考にしてください。

ねらい

・同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
・文字だけで伝えると、感情が伝わらないので、誤解されやすいことに気付く。



・自分の「嫌な言葉」が相手の「嫌な言葉」と同じではないことに気付くようにするため、グループやクラスで「嫌な言葉」を共有させる。

・自分が「嫌ではない」と思っていたことが、相手にとっては「嫌なこと」であるなど、理由とともに違いを認識するようにさせる。

・「自分が一緒に写っている写真を公開される」がトラブルになる可能性があることに気付かせる。
・「真面目だね」の文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の伝わり方の違いについて、実演し、考えさせる。

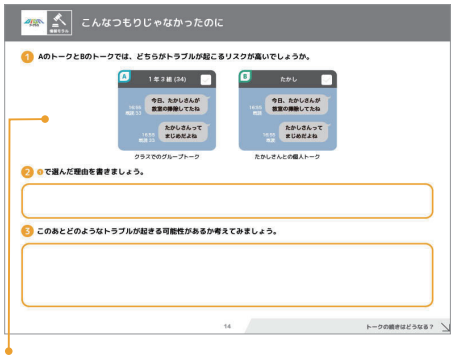
こんなつもりじゃなかったのに

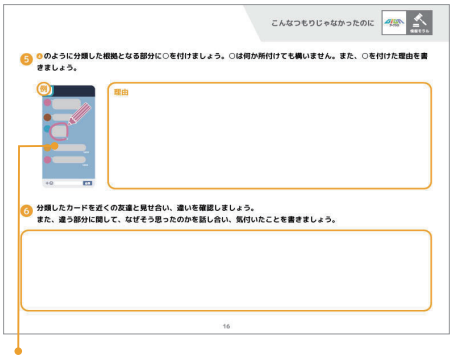
学活　総合　道徳

P7のモデル指導案を参考にしてください。

ねらい

・コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気付き、自分と他者との危険（リスク）の予想の「違い」に気付く。
・ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考える。





・同じトーク内容でも、1対1の場合と、1対34（クラスでのやり取り）の場合では、人数が多いほど、多様な捉え方をする人が増えるので、自分の意図とは違う捉え方をされる可能性が高まることに気付くようにする(グループメッセージでは「真面目」という言葉が異なる意味で伝わるリスクが高くなっている。)。

・５つのトークをそれぞれ15秒で「この先、グループの会話がどうなるか」を予想させる。

・判断の根拠を共有することで、危険（リスク）を予想する際の判断の視点に気付くようにする。例えば、グループのサイズ（人数）、画面キャプチャ（画面全体を静止画で保存すること）での写真転送、送信時間、メッセージの内容など、判断の視点を説明する。

生活を見直そう

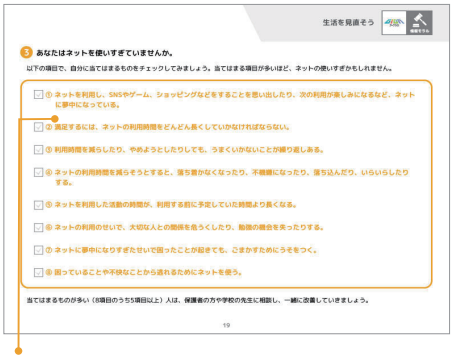
体育(保健)　総合　学活

ねらい

・自身の行動を記録して、ネットやゲームの「使いすぎ」や「適切な行動」について考える。
・使いすぎないためのルールを考える。

・ネットやゲームを「使いすぎ」てしまう経験を共有させる。
・１週間の時間の使い方について記録させ、友達や家族と共有させる。
・１週間のネットやゲームに費やした時間を計算させ、もしその時間を他のことに使うとしたら、何に使えるかを考えさせる。

・１週間の記録を見直し、どうすれば改善できるかを考えさせ、もう１週間、記録を継続できるとよい。



・チェックリストを実施し、自分が使いすぎてないかどうかを判断させる。ただし、チェックが多い生徒が一概に「ネット依存」とは言えないことに留意する。（あくまで参考として扱う）

災害時のSNSの使い方①

学活　社会　総合　道徳

P8のモデル指導案を参考にしてください。

ねらい

・災害時の情報の見極め方を考える。
・SNSを通じて防災に貢献できることに気付き、防災への意識を高める。

・①は市役所のアカウントで公式マークがあり、情報の信頼性は高いと言える。②の情報だけだと、本当に大学の先生かどうかはわからない。③もこれだけだと本当かどうかわからない。④のように誰かから聞いた情報は信頼性が低く、複数の情報を確かめる必要がある。

・⑤も伝聞であり情報の信頼性が低い。この情報にはコメントがたくさんついているのでそれらをよく確認することも重要。⑥はいろいろな防災情報をまとめたものだが、確証性を高めるために複数の情報を確かめる必要がある。⑦はニュースサイトの公式マークがあり、信頼性は高いと言える。⑧は発信された時間に注意。11:50の時点では避難が必要だが、19:10にこの情報を拡散してしまうと、間違った情報になる可能性がある。

災害時のSNSの使い方②

学活　社会　総合　道徳

ねらい

・災害時の情報の見極め方を考える。
・SNSを通じて防災に貢献できることに気付き、防災への意識を高める。

・①は情報発信より自分の安全を確保することを優先するべき。②は自宅の位置情報が特定される可能性があるので注意する必要がある。③は信頼性の高い情報元からの情報を提示しているところがよい。④のようにどこがどのような状況なのかを伝えるのは防災の観点から有効。

・⑤は友達の自宅の位置情報が特定されてしまうので発信は控えたほうがよい。⑥は情報元の提示がないので情報の信頼性が低い。⑦は、田山橋下が水没しているという具体的な場所がわかり防災の観点から有効。⑧の倒木はどこの場所なのかがわからない。

災害時のSNSの使い方③

学活　社会　総合　道徳

ねらい

・災害の種類によって必要な情報が変化することを意識させる。
・災害時に信頼できる情報をどのように入手し、共有するかをあらかじめ考えておくことの重要性に気づかせる。

・台風のような「あらかじめ予測できるような災害」と地震のような「予測が難しい災害」では、必要な情報が違ってきます。台風では、避難に関する情報をあらかじめ考えておくことが重要です。しかし、地震では、自宅以外の場所で被災する可能性もあり、家族との安否情報の共有なども重要になります。どちらの場合でも、最新の情報を確認することが重要になります。あらかじめ、どのように情報を収集・共有するかを考えておきましょう。

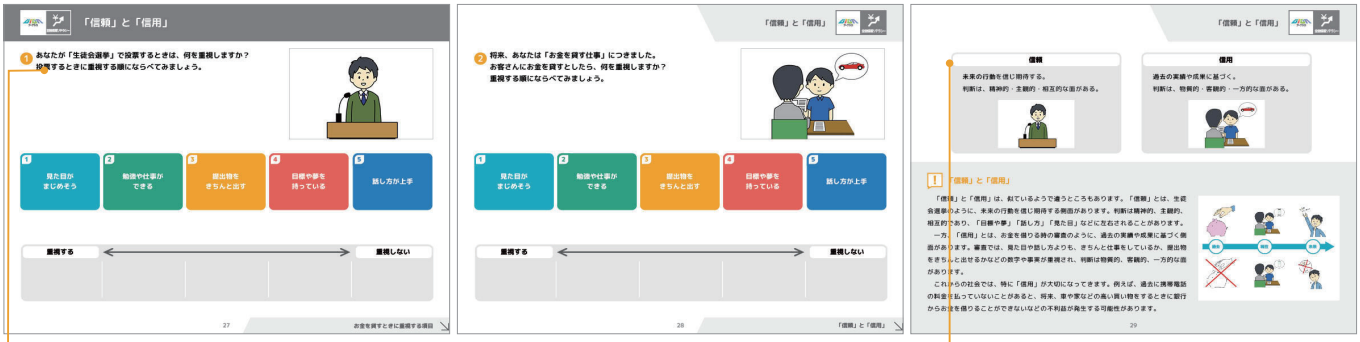
・自宅近くの被害想定の情報や自宅近くの避難経路の情報などは、「行動する前に確認しておく情報」になります。また、避難所の最新情報、警戒情報、被害状況、気象情報、交通情報、インフラの情報などは、「信頼できる最新の情報」になります。さらに、家族などの安否情報や避難状況などは、「共有するための情報」になります。こうした情報をどのように得ることができるかを考えて、「情報防災バッグ」として準備することが大切です。

「信頼」と「信用」

学活　社会　総合　道徳

ねらい

・具体事例を通して、混同しがちな「信用」と「信頼」の違いを考えることで、信用とは何かを考える。



・「生徒会選挙」と「お金を貸す仕事」の２つの場面で何を重視するかを比較させ、信頼と信用のちがいについて考えさせる。どちらの場面が「信頼」の意味に近く、どちらの場面が「信用」の意味に近いかを考えさせることで、信頼とは何か、信用とは何かについて考えさせる。

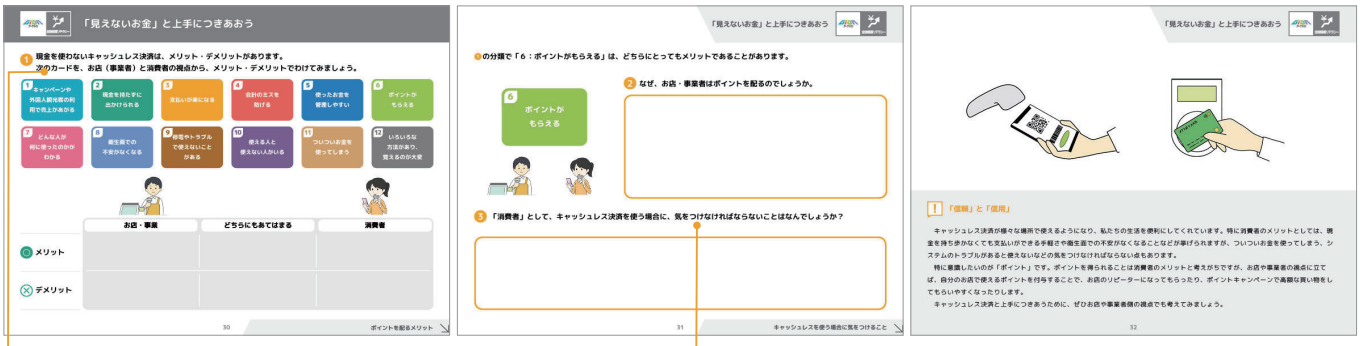
・「信頼」とは、未来の行動を信じ期待する、判断は、精神的・主観的な面があり、「信用」とは、過去の実績や成果に基づき、判断は、物質的・客観的な面があることに気づかせる。例えば、「信用」金庫はあるが、「信頼」金庫はないように、特にお金に関する問題は「信用」が重要であり、信用を積み重ねることの重要性について気づかせる。

「見えないお金」と上手につきあおう

学活　社会　総合　道徳

ねらい

・キャッシュレス決済のメリット・デメリットを様々な立場から多面的に考えることで、「見えないお金」と上手に付きあい方を考える。



・日本では、現金を落としても返ってくる「治安のよさ」や偽札かどうかを気にしなくてもよい「日本円の信用の高さ」などからもキャッシュレス決済が広がらない要因であることにも触れながら、消費者、事業者のそれぞれの立場から、メリット・デメリットを考えさせる。

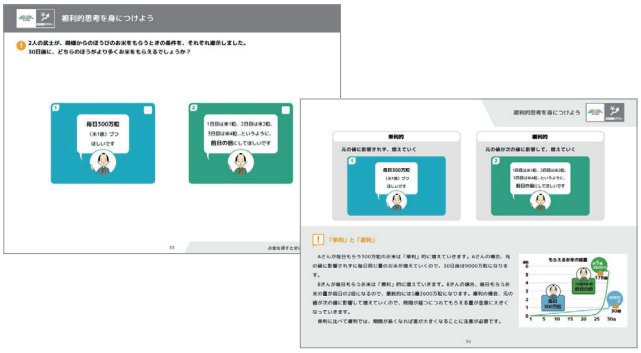
・ポイントはお店や事業者側にもメリットがあり、ポイントを配ることで、次からもそのサービスや決済方法を使おうとする消費者を増やすことができるという点を意識させ、きちんと管理していくことの重要性ときちんと管理できないと、それがあなたの実績になってしまい、信用を得ることができなくなることも意識させる。

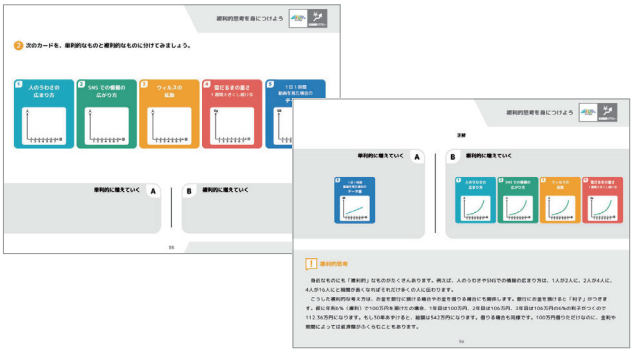
複利的思考を身につけよう

学活　社会　総合　道徳

ねらい

・「複利」ではなく、「複利的思考」を理解することを目指し、情報の拡散などの身近な複利的事例を扱い、期間によって単利と複利では大きな差がでることをイメージさせる。





・Aさんのように元の値に影響されず、増えていくことを「単利的」、Bさんのように元の値が次の値に影響して、増えていくことを「複利的」と言うことを押さえる。単利的と複利敵を比べると、期間が短いと差は少ないが、期間が長いと差は大きくなることに着目させ、もし、2ヶ月続けば、もっと大きな差になることに気づかせる。

・複利的な考え方は、身近な現象にも当てはまることを紹介するとともに、銀行にお金を預けたり、借りたりする場合には、金利が「複利」で計算されることを紹介する。特に、お金を借りる場合には、きちんと返済できないと、支払い総額が「複利」で増えてしまうことにも気づかせる。

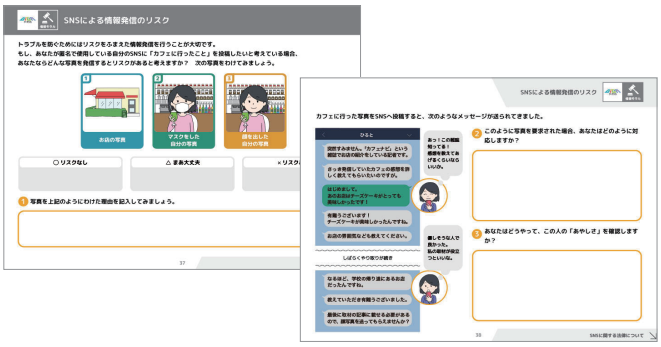
SNSによる情報発信のリスク

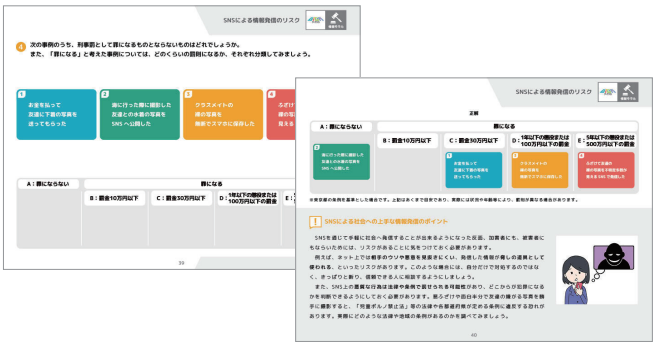
学活　総合　道徳　技術・家庭　情報

P9のモデル指導案を参考にしてください。

ねらい

・「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクに気付く。
・自分が被害者や加害者になることを予防するために、自撮り写真に関する「法的知識」を学ぶ。





・人によってSNSで発信しても良いと思う写真が異なるということを気づくようにするため、グループやクラスで「SNSで発信しても良い写真」を共有させる。
・悪意の有無がわからない相手から写真を要求された場合の対応方法について意見を共有し、認識させるようにする。また、相談相手や相談のタイミングについても具体的にイメージさせ、具体的な対応方法のイメージを持たせるようにする。

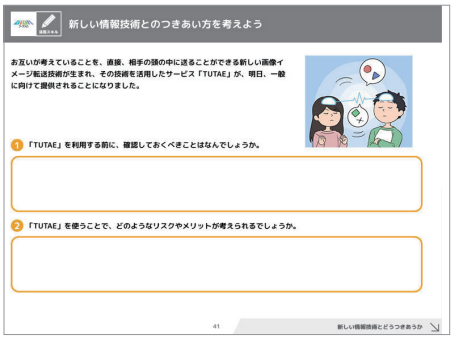
・悪ふざけであっても法律違反の行為にあたる可能性があることに気づかせる。
・被害者や加害者になることを防ぐためにも、法律や各地域の条例についても確認しておくことの大切さを認識させる。
・SNSで情報を発信する際のリスクとポイントについて、ワークの内容を振り返りながら、認識させる。

新しい情報技術とのつきあい方を考えよう

学活　社会　総合　道徳

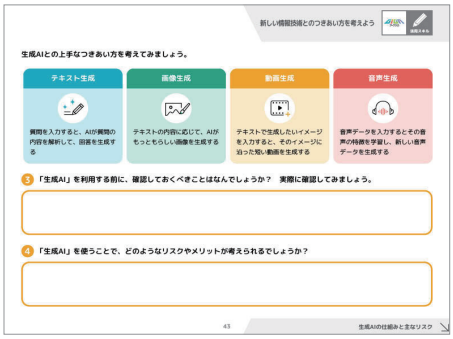
ねらい

・生成AIなどの新しい情報技術とのつきあい方を考えることにより、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できる力を育てる。

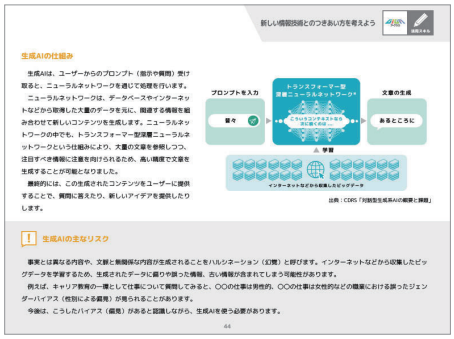


・これからも新しい情報技術が生まれ、様々なサービスが生まれてくることに触れ、こうした新しい情報技術やサービスを上手に活用するためには、どのようなことに気をつければよいかを考えさせる。

・①仕組みや規約の理解、②リスクの想像、③利活用の方法の順で考えることが重要であり、リスクを考えずに活用することやリスクを過度に警戒しすぎて使わないことについて、意見を共有させる。



・実際にいくつかの生成AIについて調べさせる。特に、その仕組みとメリットやリスクについて考えさせる。



・生成AIでは、事実とは異なる内容や文脈と無関係な内容が生成されることをハルシネーション（幻覚）と呼び、インターネットなどから収集したビッグデータを学習するため、生成されたデータに偏りや誤った情報、古い情報が含まれてしまう可能性があることに気づかせる。

端末を使う前に

はじめに

「端末を使う前に」では、端末を上手に使うために必要な基礎知識について学びます。特に、ブラウザで利用できるWEB アプリやクラウドサービスの上手な活用や様々なリスクに対応するためのリスクマネジメント、さらにはトラブルが起きた時にどう対応すればよいかというクライシスマネジメントについて学びます。

WEBアプリやクラウドを活用しよう

＃使う前に　＃活用スキル　＃やってみよう
＃消費者　＃つくり手

端末を使った学習では、WEB アプリやクラウドを活用する機会が多くなります。ここでは、WEB アプリやクラウドの仕組みに目を向けながら、普段、どのようなものを利用しているかについて考えます。WEB アプリやクラウドでは、インターネットにつながっていれば、どの場所でもどの端末でもそのサービスを活用することができますが、個人情報の取扱いやセキュリティに気を付ける必要があることも意識させます。

AIと探究的な学び

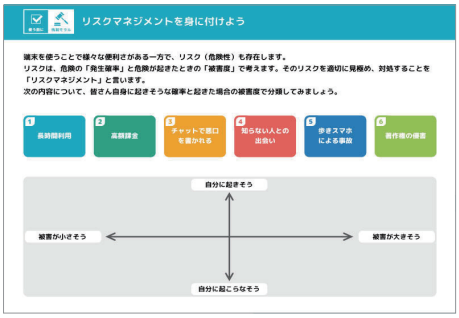
＃使う前に　＃活用スキル　＃2分類　＃消費者
＃市民　＃つくり手

探究的な学びのプロセスは、「課題の設定」「情報収集」「整理 ・分析」「まとめ ・表現」ですが、そのうち、AI で代替できるものはどれでしょうか。最近の生成AI では、「〇〇について教えて」「〇〇についてまとめて」「〇〇をつくって」と言えば、ある程度のものを生成してくれるようになりました。では、生成AI にできないことはなんでしょうか。本教材では、こうした 「AI 時代に人間に求められること」に気づくことを目的としています。

リスクマネジメントを身に付けよう

＃使う前に　＃情報モラル　＃2分類以上
＃消費者　＃トラブル全体

「リスク」は発生確率と被害度で考えます。被害度は甚大でも全く起きない事象よりも、被害度は低くとも頻繁に発生する事象の方が優先的に対応すべきリスクになります。ここでは、生徒達自身に自分のリスクを考えさせることで、優先的に対応すべきリスクは何なのかに気付かせます。友達と共有しながら、リスクについて議論する機会とするとよいでしょう。



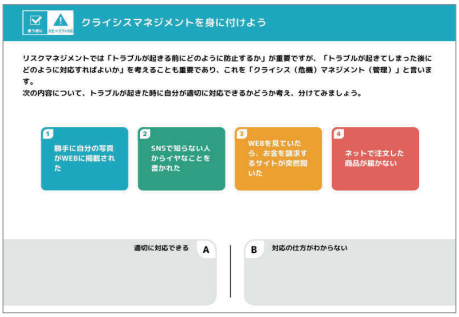
使う前に

端末を使う前に

クライシスマネジメントを身に付けよう

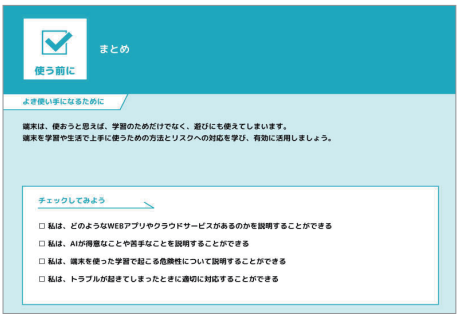
＃使う前に　＃情報セキュリティ・トラブル対応
＃2分類　＃消費者　＃トラブル全体

トラブルが発生してしまった時にどう対応するか、という視点も大切です。ここでは、生徒達自身にトラブルが発生してしまった場合の対応方法について考えさせます。もちろん、解説で示された対応方法はケースバイケースになりますが、基本的な対応方法を身に付けさせ、困ったら大人に相談するということを意識させます。



まとめ

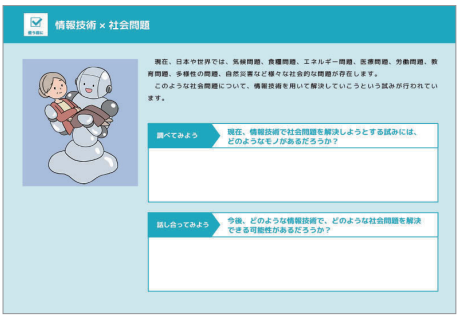
端末を上手に使うためには、「上手に使う力」とともに、「リスクに対応する力」を身に付ける必要があります。「トラブルは必ず起こるものだ」という意識を持ち、それらを起こさないための力（リスクマネジメント）と、それらが起こってしまった時に対応する力 （クライシスマネジメント）を身に付けてほしいと思います。



情報技術 × 社会問題

＃つくり手　＃情報技術　＃社会問題の解決

現在、日本や世界では、気候、食糧、エネルギー、医療、労働、教育、多様性、災害など様々な社会問題が存在しています。これらの社会問題に対して、シビックテック （Civic Tech、シビック ：市民＋テック ：テクノロジーの造語）と呼ばれるように情報技術で解決していこうという試みもあります。ここでは、ぜひこうした情報技術を社会問題の解決に役立てるという試みを意識させてほしいと思います。



写真を撮る

はじめに

端末を使うと、様々な写真や動画を簡単に撮ることができます。上手に撮ることで、レポートに活用できたり、自分を表現できたりする一方で、写真にはたくさんの情報が詰まっているので、その情報を公開してしまうことのリスクも考えられます。ここでは、写真や動画の上手な活用方法とともに、リスクを意識した活用についても学びます。

上手な写真の撮り方を学ぼう

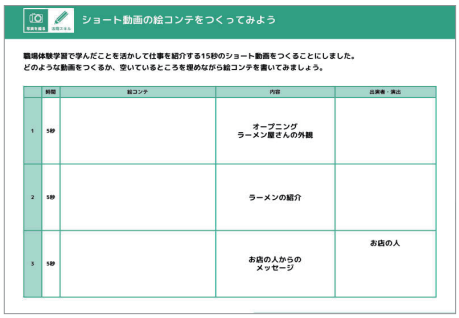
#写真を撮る　#活用スキル　#実技　#消費者　#市民

「物撮り」写真は、学習のレポートなどに使うことはもちろん、不要となった自分の洋服などをフリーマーケットサイトに載せる際や自分が食べた美味しいご飯を紹介する際にも活用することが増えてきています。「物撮り」をする場合、「構図」、「角度」、「光」の３つを意識する必要があります。ここでは実際に試し撮りをすることによって、この３つのポイントをグループで確認してみるとよいでしょう。

ショート動画の絵コンテをつくってみよう

#写真を撮る　#活用スキル　#実技　#つくり手

最近の子どもたちには、ショート動画が身近な存在になっています。ただ動画を撮るのではなく、短い時間でどのようなことを伝えるかを考えながら動画を撮るために、本教材では、「絵コンテ」を描くことを目的としています。絵を描くことに時間をかけすぎないように、絵コンテではラフに描くことが重要であることを意識させてください。



どこまで写真を公開してもよいのかな

#写真を撮る　#情報モラル　#並び替え
#消費者　#個人情報の公開

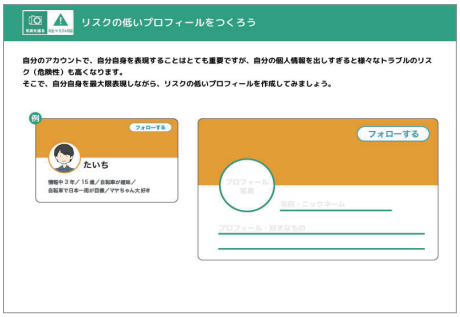
写真を公開することで、いろいろな人に写真を見てもらうことができる一方で、自分が予期しない情報を相手に伝えてしまうリスクもあります。ここでは、「公開するか／しないか」の０か１かの指導ではなく、「どこに公開したら、どの程度のリスクがあるのか」を考えさせることで、リスクを見積もる力を養います。判断した結果だけではなく、そう判断した理由も共有するとよいでしょう。

写真を撮る

リスクの低いプロフィールをつくろう

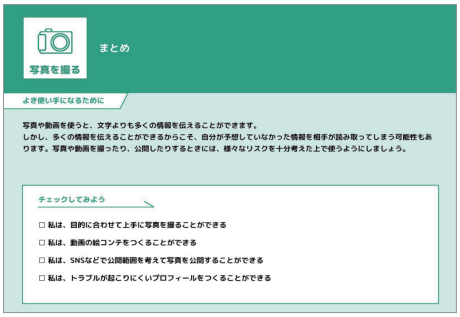
＃写真を撮る　＃情報セキュリティ・トラブル対応　＃自由記述
＃消費者　＃市民　＃個人情報の公開

　ＳＮＳなどで、「自分らしさ」を表現することはとても重要です。しかし、多くの人の目に留まると、それだけリスクも高まります。ここでは、あえて「リスクの低い」プロフィールを考えさせることで、「自分らしさの表現」と「リスク」のバランスを考えさせます。写真や文章など、どうすればよいバランスがとれるかを議論させるとよいでしょう。



まとめ

　写真や動画には、たくさんの情報が詰まっています。それは自分のことや伝えたいことを簡単にわかりやすく表現できるツールでもあります。しかし、「リスクに対応する力」も身に付ける必要があります。「リスクがあるからやらせない」ではなく、「どのような、どの程度のリスクがあるのか」を考えさせることで、リスクに対応する力を身に付けさせてほしいと思います。



画像認識 × 社会問題

＃つくり手　＃画像認識　＃社会問題の解決

　現在、様々な場所で「画像認識・画像分析」に関する技術が使われてます。こうした画像認識や画像分析は、社会問題の解決に寄与できる可能性がある反面、プライバシーや個人情報の問題も抱えています。ここでは、画像認識の現状を調べさせるとともに、どのような社会問題の解決に寄与できるか、そしてそこで発生する新たな問題についても考えることができます。

調べる

はじめに

端末を使って「調べる」という活動は、もっとも利用されている活用方法のひとつだと思います。いかに早く有益な情報を見つけ出せるかは、重要な情報活用能力のひとつです。ここでは、探究的な学習に必要な「先行研究」や「先行事例」を調べる方法や、情報を判断する方法、さらにはターゲティング広告についても学びます。

先行事例や先行研究を調べよう

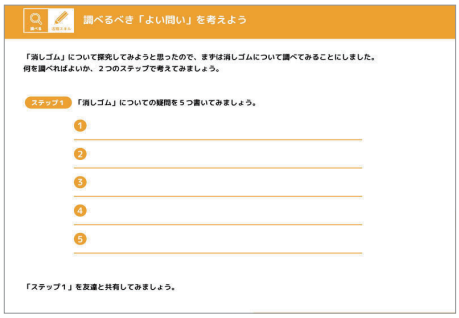
＃調べる　＃活用スキル　＃実技　＃消費者　＃市民

探究的な学習では、問題を分析したり、新しいアイデアを考えたりすることがありますが、そのアイデアが本当に「新しい」ものなのかを判断する必要があります。そのためには、「今まで、どのような事例があるのだろうか？」について調べることがとても重要です。例えば、CiNiiを使えば、日本の論文を調べることができます。こうした学術的な調べ方についてもぜひ身に付けてほしいと思います。

調べるべき「よい問い」を考えよう

＃調べる　＃活用スキル　＃自由記述　＃つくり手

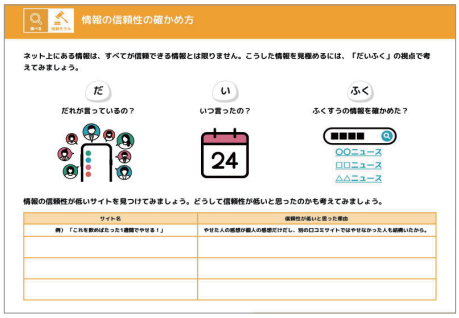
「問い」を立てて調べるためには、「よい問い」を立てる必要があります。検索すればすぐにわかるような「問い」は、「よい問い」とは言えません。本教材では、「いつ」「どこで」「だれが」よりも「なぜ」「どのように」「もっと」「もし」などの問いが検索してもわからない「よい問い」になりやすいことに気づかせます。



情報の信頼性の確かめ方

＃調べる　＃情報モラル　＃実技　＃消費者　＃誤情報・デマ

情報を検索していると、様々なサイトを見つけることができます。しかし、それが本当に信頼性の高いサイトなのかどうかを判断しないと、誤情報やデマに騙されることになってしまいます。ここでは、あえて「信頼性の低い」サイトを探させることで、どのような点を意識して情報を見極めればよいかについて考えることができます。

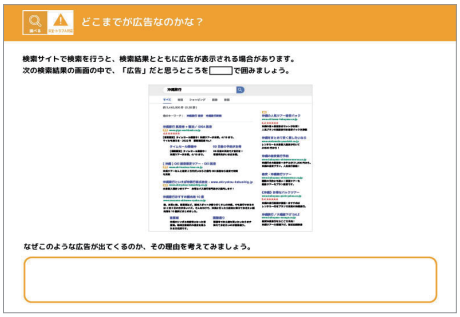


調べる

どこまでが広告なのかな

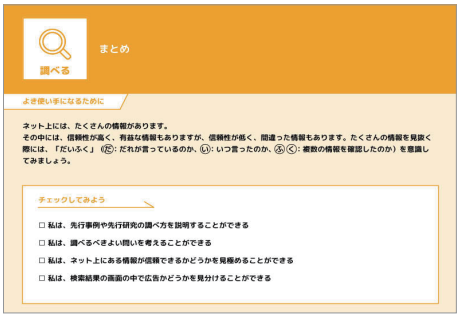
＃調べる　＃情報セキュリティ・トラブル対応　＃イラスト
＃消費者　＃つくり手　＃広告誘導

検索サイトなどでは、自分の関心が高い広告が出てくることがあります。これには 「ターゲティング広告」と呼ばれる手法が使われていることが多くあります。ターゲティング広告とは、ユーザーやコンテンツなどの情報を分析し広告を配信する手法のことです。検索したワードからそれに関連する広告を出したり、ユーザーが見たコンテンツからそれに関連した広告を出したりします。こうした仕組みについても考えさせるとよいでしょう。



まとめ

調べる際には、様々な情報の信頼性を見きわめる必要あります。こうした際には、ぜひ 「だいふく」を意識させてほしいと思います。「だ」は、「誰が言っているのか」、「い」は、「いつ言ったのか」、「ふくく」は、「複数の情報を確かめたのか」です。ネットの情報だけでなく、様々な情報も 「だいふく」で考えてると信頼性を見極めやすくなります。



自動情報提供 × 社会問題

＃つくり手　＃自動情報提供　＃社会問題の解決

これからの社会では、自分が検索しなくても、必要な情報が自動的に提供されるようになるかもしれません。こうした情報技術により、様々なデジタル・デバイド （情報格差）が改善することが期待できる一方で、例えば、自分が見たくない情報や不必要な情報が提供されてしまうなど、新たな問題の発生も考えられます。こうした社会問題の解決と新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。

考える

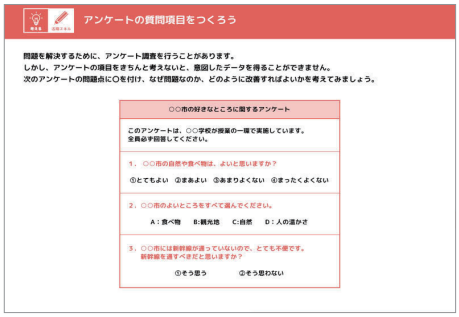
はじめに

「考える」では、考えるために必要なデータの集め方、考え方の「ズレ」、引用の仕方などについて学びます。探究的な学習では、様々なデータを収集して、整理しておく必要があります。また、考えたことを議論するためには、「自分の考えが絶対に正しい」と思い込まずに、「もしかしたら…」と考えることも重要です。ここでは学術的に「考え、議論する」ための基礎を身に付けましょう。

アンケートの質問項目をつくろう

#考える　#活用スキル　#イラスト　#消費者　#市民

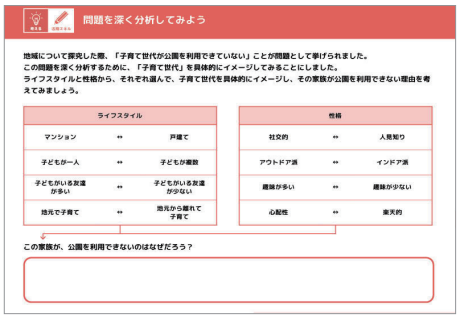
アンケートで情報を収集するためには、アンケートの質問項目を適切に設定する必要があります。自由意思での参加はもちろんのこと、一つの質問文で二つもしくはそれ以上のことを同時に聞いている質問（ダブルバーレル質問）にならないように気を付ける必要もあります。様々なアンケートを調べてみることも、質問項目の設定に役立つでしょう。



問題を深く分析してみよう

#考える　#活用スキル　#自由記述　#つくり手

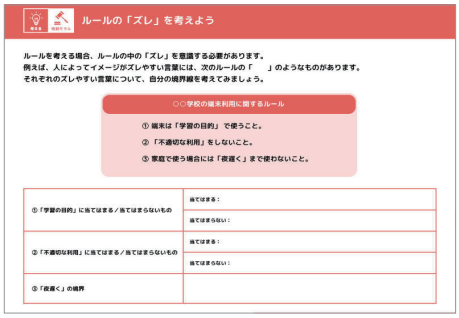
問題を深く分析できない理由の一つは、固定化されたイメージで問題をとらえてしまうことです。例えば、「子育て世代」と聞くと、「お父さんとお母さんと子どもがいるイメージ」で考えてしまいがちです。本教材では、「子育て世代」の多様さをイメージすることで、問題を深く分析する練習を行います。ライフスタイルや性格をランダムに選ばせて、いろいろな「子育て世代」をイメージさせることがポイントです。



ルールの「ズレ」を考えよう

#考える　#情報モラル　#自由記述　#消費者　#ルールづくり

自分は伝わっていると思っていても、相手に伝わっていないというときは、お互いのイメージに「ズレ」があることがあります。「きちんと」「はやく」「たくさん」などの言葉はもちろん、「学習の目的」「不適切な」「夜遅く」などもズレやすい言葉であることを理解し、それを議論することの大切さについて意識させてほしいと思います。

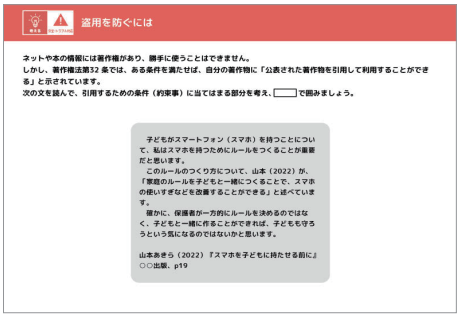


考える

盗用を防ぐには

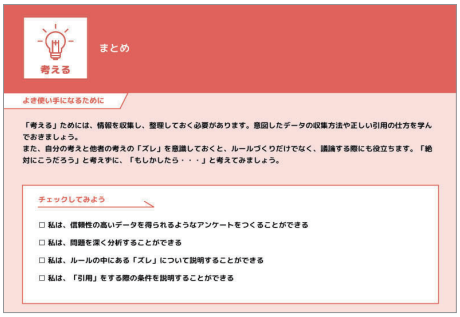
#考える　#情報セキュリティ・トラブル対応　#イラスト
#消費者　#市民　#著作権の侵害

探究的な学習で、様々な先行事例や先行研究を集めた場合、それを自分の発表の中で紹介することもあるでしょう。その際に、適切に紹介しないと、その先行事例や先行研究を無断で自分のものとして発表した（盗用）と見なされることがあります。ここでは、引用の基礎的な知識やスキルを身に付けさせるとともに、なぜそれが重要なのかについても考えさせてほしいと思います。



まとめ

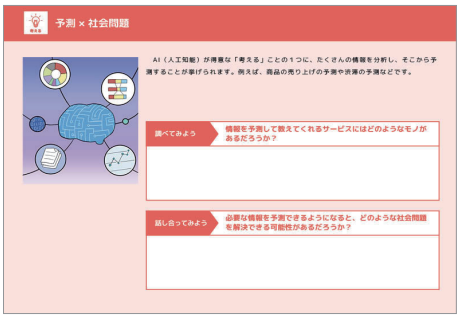
探究的な学習では、様々なデータを収集したり、整理したり、議論したりすることが多くあります。その際に、いかに信頼性の高い情報を集めるか、先行事例や先行研究を大切にした上で自分の考えの新規性を表現できるかはとても重要な力になります。自分の考えが絶対ではないことを意識しながら、考えを深めていくことの基礎を身に付けさせてほしいと思います。



予測 × 社会問題

#つくり手　#予測　#社会問題の解決

人工知能（AI）の得意なことのひとつに、たくさんの情報（ビックデータ）を分析して、予測をするということが挙げられます。これからの社会では、こうした予測を上手に活用し生活することはもちろんのこと、社会問題の解決にも予測が生かされることが予想されます。しかし、こうした予想からさらに新たな問題が発生することも考えられます。こうした社会問題の解決と新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。



共有する

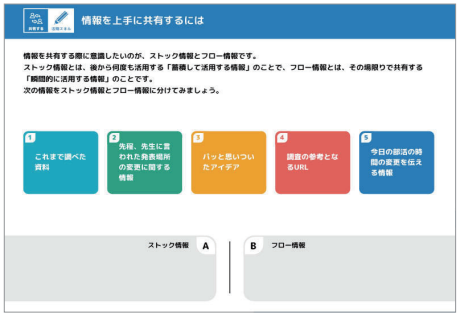
はじめに

「共有する」では、上手な情報の共有方法や「批判」と「非難」の違い、そしてグループチャットでの悪口をどう止めるかについて考えさせます。情報を上手に共有することは、これからの社会でも重要な情報活用能力になります。情報の特性や相手のことを考え、相手がわかりやすい工夫や相手が改善しやすいフィードバックの在り方などを考えさせてください。

情報を上手に共有するには

＃共有する　＃活用スキル　＃2分類　＃消費者
＃市民　＃つくり手

情報共有には、「ストック情報」と「フロー情報」を意識する必要があります。身近な情報の中で、「ストック情報」にあたるものは何か、「フロー情報」にあたるものは何か、と考えさせることもおすすめです。その際、チャットをあとから遡って調べた経験などを共有させると、ストック情報として残しておいた方がよい情報のイメージがつかみやすくなります。



発表を客観的に評価してみよう

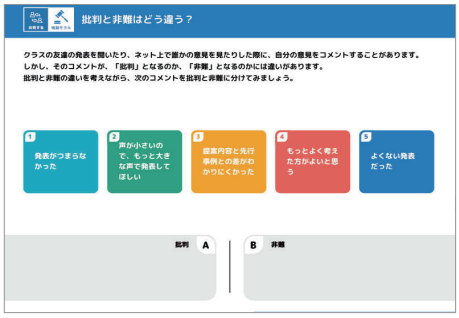
＃共有する　＃活用スキル　＃自由記述　＃市民　＃つくり手

探究的な学習では、途中や最後に発表会を行うことが多くあります。発表を客観的に評価するためには、ルーブリックを作成する必要があります。本教材では、3つの評価規準と評価基準を考えて、実際に評価を行う内容になっています。様々な発表会で本教材を使っていただき、客観的な評価の難しさと重要性について実感させてください。

批判と非難はどう違う？

＃共有する　＃情報モラル　＃2分類　＃消費者
＃市民　＃コミュニケーションのトラブル

誰かの発表にフィードバックをする際、「つまらなかった」「よくない発表だった」「もっとよく考えた方がよい」などというフィードバックでは、どこをどのように修正すればよくなるのかがわかりにくく、発表者側の学びにつなげることが難しくなります。こうした「非難」的なフィードバックではなく、きちんと修正箇所を明示するような「批判」的なフィードバックの方法を身に付けさせてほしいと思います。

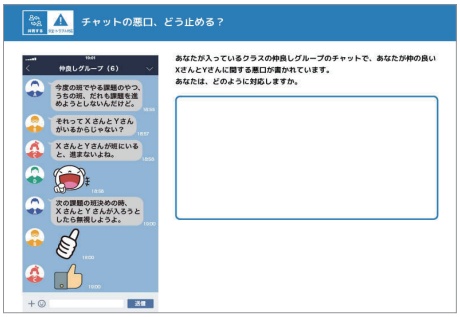


共有する

チャットの悪口、どう止める？

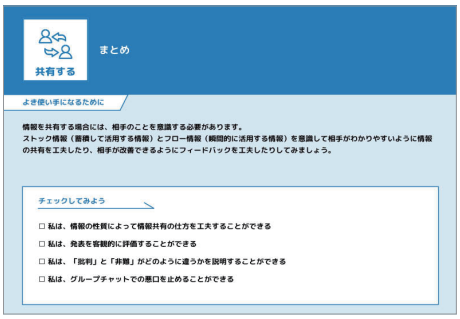
＃共有する　＃情報セキュリティ・トラブル対応　＃自由記述
＃消費者　＃市民　＃コミュニケーションのトラブル

クライシスマネジメントでは、「自分が悪口を言われたらどうするか」という視点も重要ですが、「自分以外の他者が悪口を言われている時に、どう対応するか」も重要な視点です。こうした場合、ついついチャットの中だけで解決方法を考えがちですが、リアル（対面場面）も含めてどう対応すればよいかについて考えさせてほしいと思います。



まとめ

端末を使って共有や発表をする際には、相手のことを意識する必要があります。情報の特性や相手のことを考え、相手がわかりやすい工夫や相手が改善しやすいフィードバックの在り方などを考えさせるために、ぜひ50分版の「自分と相手とのちがい」や「こんなつもりじゃなかったのに」も活用をご検討ください。



五感の共有 × 社会問題

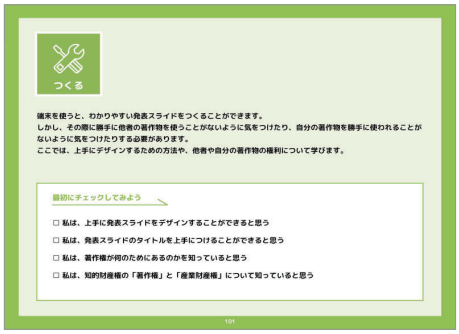
＃つくり手　＃五感の共有　＃社会問題の解決

これからの社会では、目（視覚）や耳（聴覚）以外の五感（嗅覚、味覚、触覚）を共有することができるかもしれません。こうした情報技術により、様々なデジタル・デバイド（情報格差）が改善することが期待できる一方で、例えば、自分が感じたくない感覚を共有できてしまうなど、新たな問題の発生も考えられます。こうした社会問題の解決と新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。

つくる

はじめに

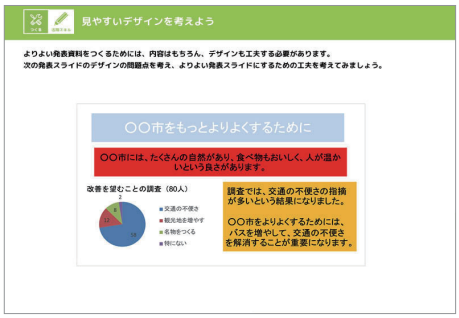
「つくる」では、上手なスライドのデザインの方法、著作権や知的財産権などについて学びます。著作権や知的財産権では、他者の権利を尊重するだけでなく、自分の権利をしっかりと保護していくことも求められます。何か新しいモノ・コト・サービスをつくるためには、権利の保護も重要であることを意識させてほしいと思います。



見やすいデザインを考えよう

#つくる　#活用スキル　#イラスト　#消費者
#市民　#つくり手

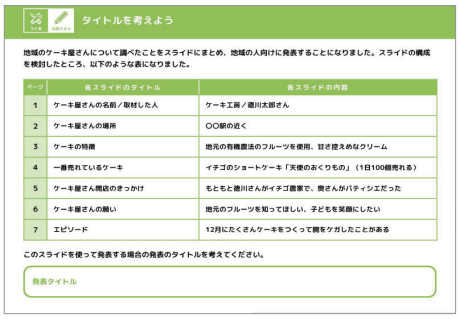
本教材では、わかりやすく、見やすい資料をつくる際のポイントについて学びます。色の数やコントラストについて学ぶことで、色弱や色覚異常の方への配慮についても考えさせ、カラーユニバーサルデザイン（色使いに配慮したユニバーサルデザイン）などについて調べさせるとより効果的な学習になります。



タイトルを考えよう

#つくる　#活用スキル　#自由記述　#つくり手

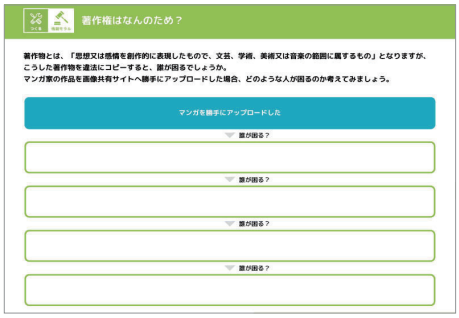
スライドでまとめた内容を発表する際、どのようなタイトルで発表すればよいかは重要な問題です。どのような人が聞くのかという相手意識を持たせ、その人たちが興味を持ちやすいタイトルをつくるためには、どのような点に着目すればよいかを考えることがポイントです。特に、数字やエピソードなどは印象に残りやすい点を紹介するとよいでしょう。



著作権は何のため？

#つくる　#情報モラル　#自由記述　#消費者
#市民　#つくり手　#著作権の侵害

マンガ家の作品を違法に公開した場合、困るのは誰でしょうか？多くの生徒達は、「マンガ家」や「出版社」と答えるでしょう。勝手に公開する→マンガ家にお金が入らない→出版社にもお金が入らない→印刷会社にもお金が入らない、そうなると最終的に困るのは誰でしょうか？実は創作活動が行われないことによって一番困るのは、それを読む人たちであることに気付かせてほしいと思います。



つくる

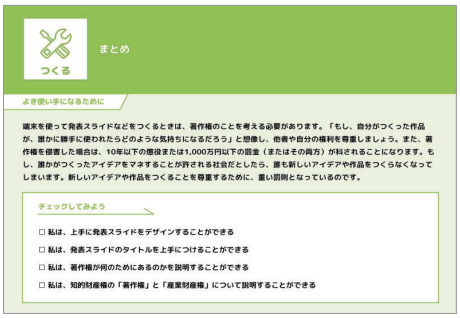
知的財産をどう守る？

＃つくる　＃情報セキュリティ・トラブル対応　＃2分類以上
＃消費者　＃市民　＃つくり手　＃知的財産権の侵害

知的財産権には、主に文化的なものを保護する 「著作権」と産業的なものを保護する 「産業財産権」があります。生徒達が産業的なモノを創作した場合には、自然発生的に保護される著作権と違い、産業財産権としての申請が必要になります。こうした権利を上手に使い、自分の創作物をきちんと保護してくことの重要性についても考えさせてほしいと思います。

まとめ

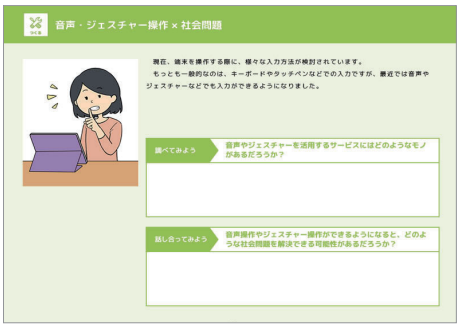
著作権を侵害した場合は、10 年以下の懲役または1,000 万円以下の罰金 （またはその両方）が科されることになりますが、なぜそのような重い罰則かといえば、それだけ新しいアイデアや作品をつくることを重視しているからです。ぜひ新しいアイデアや作品をつくることの重要性を考えさせてほしいと思います。



音声・ジェスチャー × 社会問題

＃つくり手　＃音声・ジェスチャー操作　＃社会問題の解決

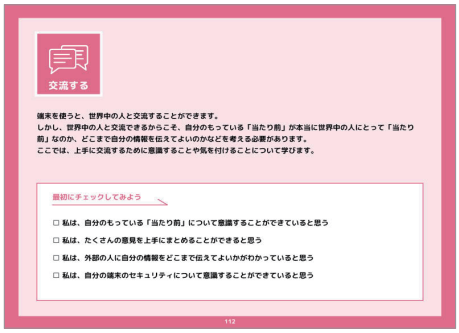
これからの社会では、キーボードやタッチペンなどでの入力以外に、音声やジェスチャーでの入力が主流になってくるかもしれません。こうした情報技術により、様々なデジタル・デバイド（情報格差）が改善することが期待できる一方で、例えば、常に音声が記録されてしまいセキュリティ上の問題が発生することも考えられます。こうした社会問題の解決と新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。



交流する

はじめに

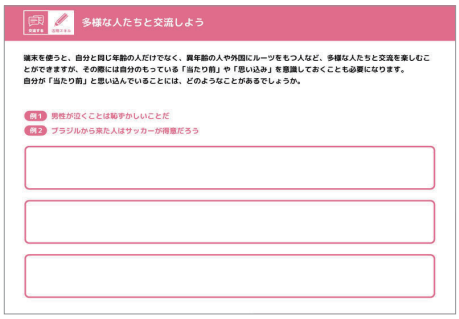
世界中の多様な人たちと「交流」するためには、自分の「当たり前」を見直す必要があります。また、多様な人たちの中には、誰かを騙そうとしている人もいるという意識を持ち、リスクに対応する力を身に付ける必要もあります。ここでは、自分の当たり前（アンコンシャスバイアス）を見直すとともに、リスクに対応する方法を考えます。



多様な人たちと交流しよう

＃交流する　＃活用スキル　＃自由記述　＃消費者　＃市民

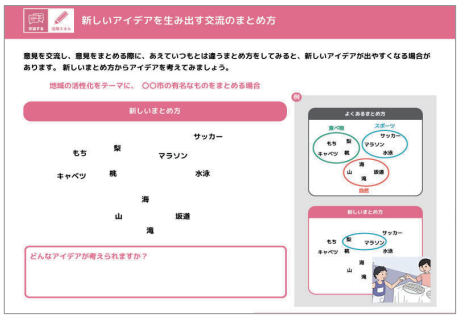
多様な人たちと交流するためには、「自分自身で気付いていない偏った物事の見方や考え方（アンコンシャスバイアス）」に気付き、「男だから」「女だから」と考えいないかどうかを見直すことが必要になります。そのほかにも、「若手だから」「ベテランだから」「子供がいるから」「結婚していないから」など、ついつい自分が持ってしまっている見方や考え方に気付かせてほしいと思います。



新しいアイデアを生み出す交流のまとめ方

＃交流する　＃活用スキル　＃自由記述　＃つくり手

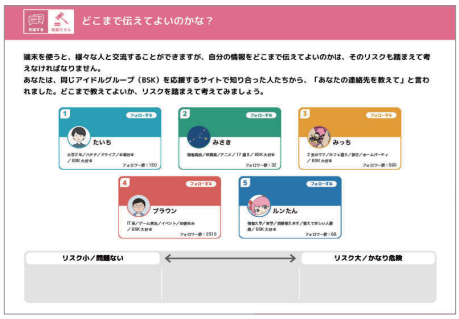
アイデアを出し合った内容をまとめる際には、同じものをまとめるといった方法をとることが一般的です。よくこれを「KJ法」と呼ぶことがありますが、KJ法は単に分類、整理するための方法ではなく、あくまで「発想法」になります。本教材は、厳密なKJ法の手法とは異なりますが、同じものをまとめるだけでなく、新しい構造を考えるといった視点で取り組むことがポイントになります。



どこまで伝えてよいのかな？

＃交流する　＃情報モラル　＃並び替え　＃消費者
＃市民　＃出会い

ここでは、「教えるか／教えないか」の０か１かの指導ではなく、「だれに教えたら、どの程度のリスクがあるのか」を考えさせることで、リスクを見積もる力を養います。判断した結果だけではなく、そう判断した理由も共有するとよいでしょう。アイコンやフォロワー数、プロフィール文などからリスクを想像させ、最終的にはアイコンの顔写真やプロフィールがウソである可能性もあることを伝えてください。

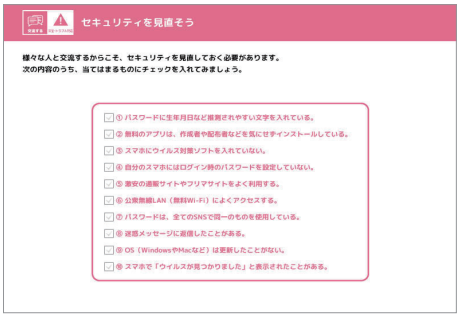


共有する

セキュリティを見直そう

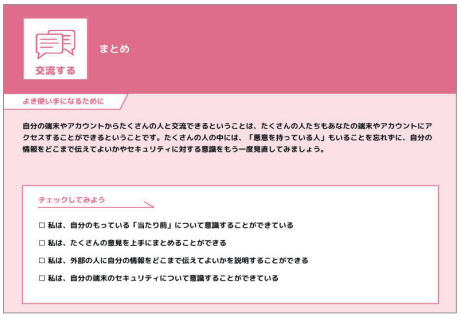
＃交流する　＃情報セキュリティ・トラブル対応
＃１つ選択　＃消費者　＃セキュリティのトラブル

世界中の人と交流できるということは、世界中の人があなたの端末やスマホ、タブレット等の情報を見ることができるということであり、中にはその情報を狙っている人がいるかもしれません。「悪意がある人がいる」ことも忘れずに、セキュリティ対策やウイルス対策ソフト ・OS のアップデートの重要性について気付かせてほしいと思います。



まとめ

端末を使うと様々な人と交流することができますが、顔が見えない相手との交流には便利さとともに難しさもあることに気付いてほしいと思います。特に、相手の顔が見えないと、自分の都合のよいように感情や状況を想像してしまいがちですが、いろいろな可能性を想像することの重要性に気付かせ、どのようなことに気を付けるとよりよい交流ができるかを考えさせてほしいと思います。



メタバース × 社会問題

＃つくり手　＃メタバース　＃社会問題の解決

メタバースとは、コンピュータの中に構築された3 次元の仮想空間やそのサービスのことで、「超 （Meta）」と 「宇宙（Universe）」を組み合わせた造語です。例えば、手や足が不自由でも3 次元の仮想空間では自由に移動することができるなど、現実の格差を改善できる可能性を秘めています。ここでは、メタバースの現状を調べさせるとともに、どのような社会問題の解決に寄与できるか、そしてそこで発生する新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。

家で使う

はじめに

「家で使う」ためには、自分で自分を律しながら使う「自律」の力が求められます。特に、時間の使い方については、ついつい長時間利用しがちになってしまいますので、自分で時間を管理する（タイムマネジメント）力が必要となります。ここでは、上手に学習に使う方法とともに、タイムマネジメントの力を身に付けさせます。

学習で上手に活用しよう

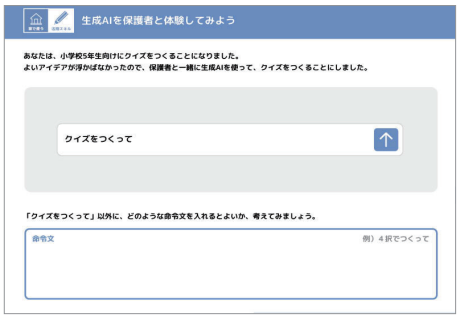
＃家で使う　＃活用スキル　＃自由記述　＃消費者
＃市民　＃つくり手

ここでは、学習で上手に端末を活用するための方法を考え、共有させます。様々なコンテンツやWEBサービスなどがありますので、どんなものをどんな学習に利用できるのかを考えさせ、有効なツールや使い方をどんどん共有させてほしいと思います。ただし、その際には健康面や課金についても意識させるとよいとでしょう。

生成AIを保護者と一緒に体験してみよう

＃家で使う　＃活用スキル　＃実技　＃消費者　＃つくり手

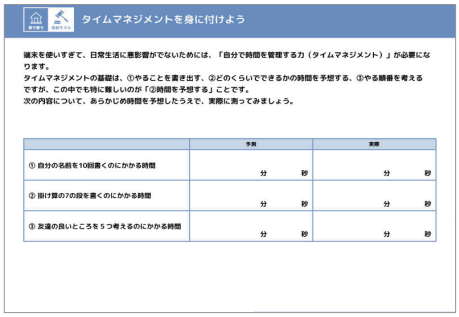
生成AIを上手に活用するためには、「プロンプト」と呼ばれる指示や命令文が重要になります。例えば、目的を説明したり、役割や場面を設定したりすると、よりよい内容を出力してくれます。ただし、出力された内容には、間違いが含まれていることもあります。内容をきちんと確認することの重要性にも触れ、利用年齢などのルールを守って保護者と一緒に活用することを強調してください。



タイムマネジメントを身に付けよう

＃家で使う　＃情報モラル　＃実技　＃消費者　＃長時間利用

タイムマネジメントの基礎は、①やることを書き出す、②どのくらいでできるかの時間を予想する、③やる順番を考える、ですが、この中で一番難しいのは②の時間の予想です。これは経験を積み重ねることでしか、上手になる方法はありません。普段から、「これにどのくらいの時間がかかるかな」と予想させ、実際に測ってみることを通して、時間を予想する力を育ててほしいと思います。

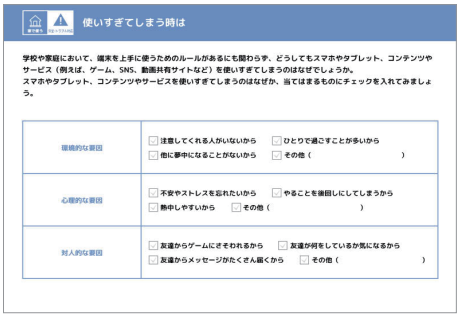


家で使う

使いすぎてしまう時は

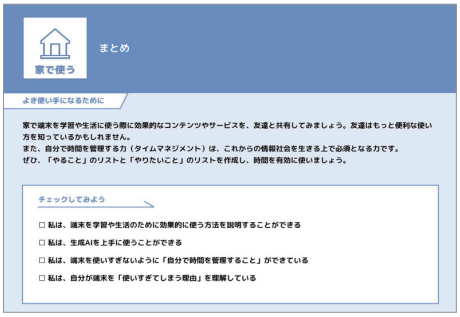
＃家で使う　＃情報セキュリティ・トラブル対応
＃チェック　＃消費者　＃つくり手　＃長時間利用

スマホなどを使いすぎてしまうのは、コンテンツやサービスが「楽しい」からだけではありません。何か不安なことからの逃避や友達との人間関係など、様々な要因が考えられます。まずは生徒達自身にその要因を考えさせるとよいでしょう。また、ぜひ50分版の「生活を見直そう」も活用をご検討ください。一緒に実施すると効果的です。



まとめ

自分で時間を管理する（タイムマネジメント）力は、これからの情報社会で必要となる情報活用能力になります。特に、「やること」だけでなく、「やりたいこと」も考えておくと、余った時間や空いた時間などを有効に活用することができます。ぜひ「やること」のリストだけでなく、「やりたいこと」のリストを作成させてほしいと思います。



6G × 社会問題

＃つくり手　＃６Ｇ　＃社会問題の解決

6Gとは、第6世代移動通信システム（6th Generation Mobile Communication System）の略で、「高速・大容量」「低遅延」「多数接続」などの5Gの性能をさらに高めるものとして研究開発が進んでいます。ここでは、6Gの現状を調べさせるとともに、どのような社会問題の解決に寄与できるか、そしてそこで発生する新たな問題についても考えさせるとよいでしょう。

「未来を担う子どもたちにインターネットの楽しさを！」この思いから、1997年にYahoo!きっずが誕生しました。
教育現場や家庭で広く活用していただくことで、正しいインターネット利用の促進や、子どもたちの未来の可能性を大きく広げるお手伝いができることを、目指しています。

YAHOO! JAPAN きっず

コンテンツの一例

Yahoo!きっず検索

フィルタリングを行い、子どもたちにとって不適切なページが表示されない仕組みを導入しています。
キーボードのタイピングに不慣れなお子さま向けに、マウスで言葉を選択できるソフトキーボードも用意しています。

マンガで学ぼうAIガイド

AI（人工知能）について、マンガを使って楽しく学べるコンテンツです。最近話題になっている生成AIを含めたAIのしくみや、身近な活用例、利用についての問題点などを掲載。ワークシートも用意しているので、授業でもご活用いただけます。

ココカラ学園

ココロとカラダのことを学べる「ココカラ学園」 「こころ」や「からだ」を知ることは、生きていくためにとても大事なこと。 教員の皆様向けのワークシートや動画もご用意しております。

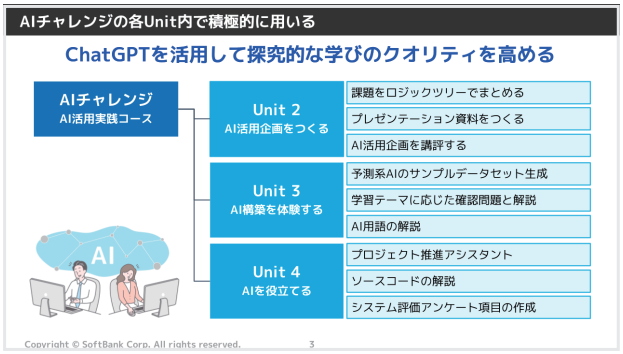
他にも多数のコンテンツを用意しています。 https://kids.yahoo.co.jp/ やふーきっず 検索

AI Challenge

探究学習でAI活用人材を育成する

日本は超高齢社会・労働人口減少など、さまざまな社会課題を抱えており、これらを解決するためにソフトバンクでは、AI活用人材の育成に取り組んでいます。

AIチャレンジは、探究に求められる「発想力」「テクノロジー活用力」「実装力」の3つの力を身につけることで、これからのAI社会を牽引する次世代の担い手たちを育成する教材です。



AIを知る

社会で使用されているAIに関する知識を正しく備え、AIによって変化する職業や仕事について理解します。また、生成AIによるフェイク情報などトラブルの危険性に対し、ファクトチェックの方法とAI倫理を学びます。

AIを使いこなす

実際にAI構築環境を使用してAIをつくる体験と、社会課題に対してAI活用システムを企画・設計・実装・評価する一連の流れで、探究学習に必要なスキルの習得を行います。さらに、これらの活動の中で生成AIを活用し、個別最適な学習支援を得る方法を身につけます。

AI Challenge

https://www.softbank.jp/corp/sustainability/special/ai-challenge/

全国統一
スマホデビュー検定

考えよう 家族みんなで スマホのルール

私たちは子供たちの
情報モラル育成に取り組みます

文部科学省

この検定は、スマホデビューする上でぜひとも知っておいてほしい知識を、身につけてもらうための検定です。

合格を目指し、ぜひ親子でチャレンジしてみてください！

受検はこちら！（受検料無料）

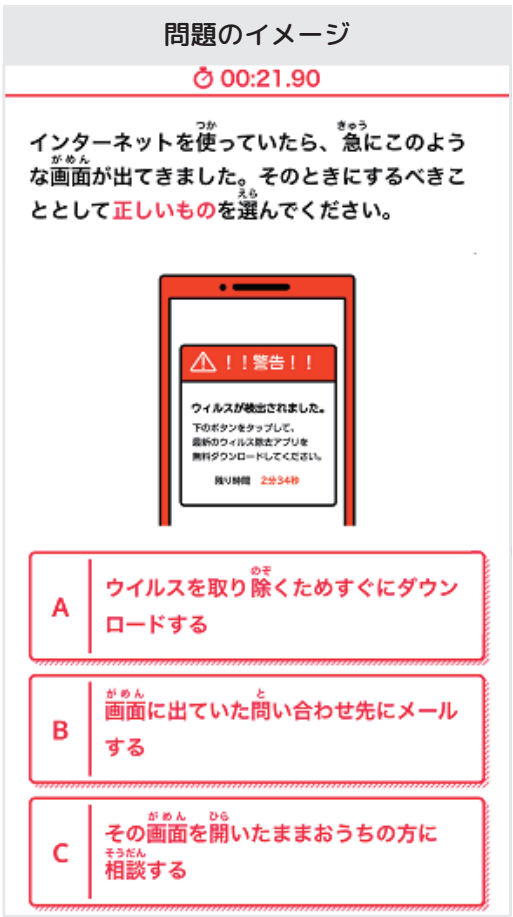
https://ymobile.jp/s/Ew7uH

監修者紹介

藤川大祐

千葉大学教育学部 教授 ・教育学部長 文部科学省 「ネット安全安心全国推進会議」委員や内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」座長代理などを歴任。メディアリテラシー教育の第一人者。

問題のイメージ



活用型情報モラル教材

GIGA ワークブック とちぎ

アドバンスド

2024

活用の手引

GIGAワークブック　とちぎ
活用の手引

初　版

発　行　日　　2024年3月31日

制　　作　　栃木県教育委員会
一般財団法人LINEみらい財団
静岡大学教育学部准教授　塩田真吾
常葉大学教育学部講師　酒井郷平
アラサキデザインスタジオ

協　　力　　ソフトバンク株式会社
LINE ヤフー株式会社

LINE みらい財団　SoftBank　YAHOO! JAPAN きっず

・本教材は、東京都教育委員会と一般財団法人LINEみらい財団との共同研究による成果物「SNS東京ノート」をベースとしてGIGAスクール構想に対応した内容を加えています。
・本教材の著作権は、一般財団法人LINEみらい財団が保有しています。
・本教材は、児童・生徒・保護者への啓発・教育を目的として、無償で提供する場合に限り、自由に利用することができます。これ以外での2次利用はおやめください。